

令和4年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通網形成計画の評価結果) 概要 (全体)

伊勢地域公共交通会議 (伊勢市)

平成18年11月30日設置

令和2年3月25日 伊勢市地域公共交通網形成計画策定
(計画期間：令和2年4月～令和7年3月)

令和3年6月30日	フィーダー系統	確保維持計画策定
令和4年3月16日	〃	確保維持計画変更
令和4年8月9日	〃	確保維持計画変更

令和5年1月20日 令和4年度評価結果送付

1.【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

地域の特性と背景

- 人口：経年的に減少傾向、高齢化は着実に進展（R2時点高齢化率：32% H27時点高齢化率：29%）
- コミュニティバス：H19.4から運行開始、利用の約7割が65歳以上、目的は買物・通院が多い
- 市内環状バス：社会実験運行後、R2.4.1からおかげバス環状線として本格運行
- 路線バス：利用者数は市民が主に利用する一般路線で減少、年齢層は幅広く、観光利用が特に多いほか、通勤や通院、買い物など多様な利用目的
- H28.3「伊勢市地域公共交通網形成計画」策定、R2.3に改訂

総合計画・都市マス・立地適正化計画における公共交通（バス）の位置づけ

- 誰もが安心して移動できるための地域公共交通の充実
- 誰もが利用しやすい公共交通手段の充実
- 地域間交流の促進
- 生活基盤としての公共交通の確保
- 公共交通の利用促進により交流人口の増加
- 鉄道やバス、タクシーなど様々な公共交通の連携

（改訂）伊勢市地域公共交通網形成計画

○計画期間

令和2年度～令和6年度

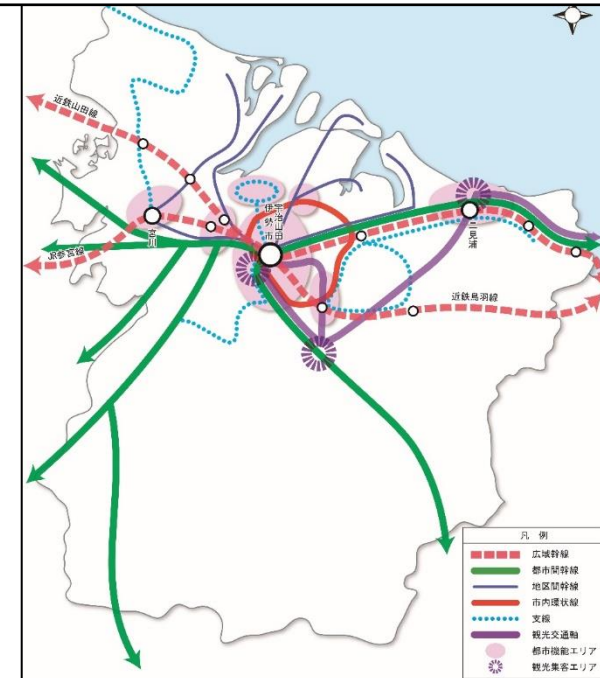
○基本方針

- ①日常生活で利用できる公共交通を目指す
- ②公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す
- ③地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える

令和4年4月時点の地域公共交通網



伊勢市地域公共交通体系のイメージ



主な取り組み内容

○おかげバス環状線の運行（実施主体：市、交通事業者）★

⇒令和2年4月からの本格運行を開始後、特に令和2年度から令和3年度にかけて、感染症の影響を受けつつも、令和4年度に至るまで**全体的な利用者が増加傾向**

⇒その他のおかげバスや路線バス、鉄道および地域運営乗合タクシーとの**乗り継ぎ割引**を継続して実施

○バスの乗り方教室&交通安全教室の実施（実施主体：市、交通事業者）

⇒バスに乗る機会が減少するなか、将来のバス利用者となる小学生に対し、バスへの興味喚起や利用啓発のため、**市内の小学校6校**で実施

⇒今年度より、交通安全指導員の協力のもと**実際のバス車両を使った交通安全教室**を同時実施

⇒高齢者の増加に加え、ここ3年程度の免許返納件数増加に対する新たな取り組みとして、2つの地域団体にて**高齢者向けの教室**を実施。コロナの影響を受け、外出頻度が減った人への、バスを使ったお出かけを呼びかけ

⇒実施による利用状況の変化（R3,R4比）は未確認

○ボンネットバスの里帰り企画実施（実施主体：公共交通会議、協力：交通事業者、NPO法人）

⇒感染症により中止となった例年の伊勢まつりの企画に代わる、バスに関心を持ってもらうイベントとして、昭和59年まで市内を走行していた**ボンネットバス車両の里帰りイベント**（賓日館での**展示、無料の乗車体験**）を実施

⇒乗車体験は、1乗車はコース周遊とせず**片道乗車**としたため、出発地点へ戻る手段として路線バス等の**公共交通の利用を呼びかけ**

⇒**乗車率は93%**。県内外から訪れる人や、**メディアやSNSで多数取り上げられ**、注目を集める



3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

生活交通確保維持改善計画

おかげバス		利用者数（評価期間R3.10～R4.9）			1人1回あたり輸送コスト		
		目標	実績	差	目標	実績	差
鹿海・朝熊線	未達成	10,150人	9,408人	▲742人	1,080円	1,170円	90円
東大淀・明野・小俣線	未達成	23,430人	19,523人	▲3,907人	1,260円	1,560円	300円
二見線	未達成	14,140人	12,117人	▲2,023人	1,330円	1,550円	220円
辻久留・藤里線	未達成	14,600人	11,301人	▲3,299人	1,340円	1,730円	390円
環状線	達成	46,360人	47,296人	936人	940円	930円	▲10円
計	未達成	108,680人	99,645人	▲9,035人	—	—	—

沼木地区自主運行バス		運行（評価） 期間	利用者数		
			目標	実績	差
市内連絡用（1）	達成	R4.9（1ヶ月）	26人	39人	13人
市内連絡用（2）	未達成	R3.10～R4.9	363人	153人	▲210人
市内連絡用（3）	未達成	R4.9（1ヶ月）	26人	8人	▲18人
南伊勢高校度会校舎前連絡		R3.10～R4.9	619人	6人	▲613人
市内連絡・買物用（1）	未達成	R3.10～R4.9	1,840人	1,430人	▲410人
市内連絡・買物用（2）	未達成				
計	未達成		2,874人	1,636人	▲1,238人

【目標値】
おかげバス・・・
コロナ禍の水準から
コロナ前の水準へ
環状線・・・前年度
比103%
沼木バス・・・補助
基準の下限目標

- おかげバスは環状線をのぞき、コロナ前の水準に達せず、コロナ禍の昨年度と同水準。
- 環状線は年度単位での利用者増加。
- 沼木バスは確実な通学利用が見込める、令和4年9月改正後の新設系統が目標を達成した。

その他補助対象外路線の利用状況（抜粋）（10月～9月） ※（）内は前年利用者数

おかげバス	利用者数	増加	おかげバスデマンド	利用者数	増加
御園線	5,345人（3,865人）	1,480人	御園・小木・田尻デマンド	1,293人（1,038人）	255人

※自己評価を行った会議：第3回伊勢地域公共交通会議（令和5年1月10日）

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

【参考】 直近3ヶ月の状況

おかげバス	3か月間（R4.10～12）の利用状況			
		目標値（R5年度の生活交通確保維持改善計画）	実績	差
鹿海・朝熊線	未達成	11,300人/年×1/4（3ヶ月分）＝2,825人	2,352人	▲473人
東大淀・明野・小俣線	達成	20,300人/年×1/4（3ヶ月分）＝5,075人	5,896人	821人
二見線	未達成	16,600人/年×1/4（3ヶ月分）＝4,150人	3,178人	▲972人
辻久留・藤里線	未達成	18,200人/年×1/4（3ヶ月分）＝4,550人	2,987人	▲1,563人
環状線	達成	48,500人/年×1/4（3ヶ月分）＝12,125人	13,689人	1,564人
計		28,725人	28,102人	▲623人

【おかげバス】 環状線以外の目標値は、令和元年度と同水準の利用者数として設定。
環状線は、前年度比103%の利用者数を目標値として設定。

沼木地区自主運行バス	3か月間（R4.10～12）利用状況			
		目標（R5年度の生活交通確保維持改善計画）	実績	差
市内連絡用（1）	達成	（3ヶ月分）79人	100人	21人
市内連絡用（2）	未達成	（3ヶ月分）237人	13人	▲224人
市内連絡用（3）	未達成	（3ヶ月分）79人	26人	▲53人
南伊勢高校度会校舎前連絡	未達成	（3ヶ月分）79人	2人	▲77人
市内連絡・買物用（1）	未達成	（3ヶ月分）395人	384人	▲11人
計	未達成	869人	525人	▲344人

【沼木バス】（新設系統）

- ・市内連絡用（1）は、毎朝の小中高生の通学に合わせた利用を想定した系統
- ・市内連絡用（2）は、旧ダイヤの回送を、路線バスの接続時間に合わせて営業化した系統
- ・市内連絡用（3）は、市内連絡用（2）の新設に伴い、
市内連絡・買物用（1）のうち、利用実績が僅かであった区間を短縮し新設した系統

【参考】 (改訂) 伊勢市地域公共交通網形成計画の評価指標と現況値

N O	指標	計画策定時 (H30年度数値)	令和3年度 (R3.4~R4.3)	目標値 (R7年度)
1	路線バスの利用者数 (外宮内宮線・CANばす・二見サンアリーナ線を除く)	1,584,300人	1,043,900人 未達成	1,580,000人
2	おかげバス・おかげバスデマンドの利用者数	81,654人	103,744人 達成	89,000人
3	沼木バスの利用者数 (スクール用を除く) ※令和3年度より沼木バスデマンドも含む	3,722人	1,929人 未達成	3,700人
4	年間利用者数72名未満のコミュニティバス停留所の割合 (R2は再編後利用者数48名未満)	31%	25% 未達成	21%
5	市民アンケートの交通環境満足度 (満足・どちらかといえば満足)	49%	50% 未達成	59%
6	内宮の参拝者の公共交通利用率	31%	17% 未達成	35%
7	路線バスの利用者数 (外宮内宮線・CANばす・二見サンアリーナ線)	2,676,600人	1,229,400人 未達成	3,000,000人
8	公共交通の啓発・利用促進事業に参加した人数	857人	351人 未達成	940人
9	おかげバス・おかげバスデマンドのページ (伊勢市ホームページ) アクセス数	38,376件	35,181件 未達成	42,000件
10	伊勢地域公共交通会議の開催数	5回/年	3回/年 未達成	4回/年

●課題と対応

○沼木地区自主運行バス

⇒元々の利用減少に加え、コロナによる追い打ちを受けた沼木バスは、利用状況や**小学生の転入・転出**に合わせ、必要とするニーズに合わせたダイヤが望まれた。令和4年4月頃より、地域の学生（小中高生）の**通学時間に合わせつつ、日常生活路線として利用できるダイヤ**をまちづくり協議会で協議し、ダイヤ変更を行った。デマンドについても**要望のあった勾配の大きい地区へ延伸**し、より利用しやすいものとした。また、お得に利用できる**おかげバス回数券の利用・販売を開始**したほか、**地区別の時刻表**をまちづくり協議会にて作成し、住民へ配布した。ダイヤ変更後の利用者数の推移を注視していく。

また、車両も走行距離が360,000kmを超えているが、現在の利用は芳しくないため、車両更新は慎重にならざるを得ない。輸送体系そのものを協議していく必要があると考えるが、デマンドへの転換以外に、アイデアやアドバイス等があればご教授いただきたい。

○公共交通機関の周知・利用啓発

⇒啓発手段として、時刻表の作成配布、広報誌での情報発信、バスの乗り方&交通安全教室の開催、バスポスターコンクールなどを実施する。高齢者を対象とした乗り方教室は令和4年以上に取り組む方針とし、自治会や老人会の代表者向け試乗会も検討したい。また、**観光目的の公共交通機関による来訪が低迷している**ことから、観光部署や関係事業者との連携で、**市外への周知・利用啓発**にも取り組んでいきたい。

○バスの利用環境の改善

⇒おかげバスでのキャッシュレス決済は、引き続き広報や時刻表発行などのタイミングで定期的な周知を行う。環状線における乗継割引券のサービスや、標準的なバス情報フォーマットG T F S - J Pでのデータ提供についても継続して行う。また、路線バスで開始したGoogleマップのリアルタイム表示についても、今後、事業者と連携して対応したい。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	<p>利用者の減少に伴い、路線維持が困難になってきた事業者路線を沿線自治会、市、事業者の協働により、沿線利用者がより利用しやすい路線やダイヤに見直しを行った。</p>	<p>R3.4.1にダイヤ変更を行った大湊線は、主要な伊勢市駅前～ララパーク間の運行系統が一部神社線に移行したこともあり運行本数は減少した。(平日14本→10本) また、ララパーク～大湊間は、交通空白地の解消のために運行系統を分けたため、実質減便となり、全体の利用者は減少した。</p>	<p>大湊線はバス停を新設し、交通空白地の解消といった利便性の向上を目的にダイヤ変更を行ったことを、R4年度はPRも兼ねる形で、大湊地区の自治会にて高齢者向けのバスの乗り方教室として開催した。大湊線のPRの継続のほか、他の市内路線のPR等にも取り組んでいきたい。</p>
	<p>おかげバスにバスロケーションシステムや交通系ICカードを導入するとともに、4か所のバス停に上屋を設置しバス待ち環境の改善を実施し利便性の向上を図った。</p>	<p>おかげバスでの交通系ICカードの利用は導入当初より増加している(導入時利用率19%→現在30%)。特にICカードの利用については、広報紙や、行政chや市のYouTube、地域の情報誌で触れる等、特に啓発に取り組んでいる。</p>	<p>ICカードの利用で運賃が1割引のようなアピールにより、引き続き定期的な利用啓発を行っていく。その他、一日券における電子チケットの導入の検討等、事業者と協働して利便性の向上につながる取り組みを継続していく。</p>
	<p>市内を運行する地域間幹線系統のうち輸送量が低迷している系統について、引き続き、利用促進や系統維持に向け県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。</p>	<p>事業者が路線を継続して維持していけるよう、市としても利用状況の把握を定期的に行なっている。</p>	<p>市としても利用状況の把握を定期的に行い、必要であれば事業者や沿線利用者と協働してダイヤの見直し等を検討していく。</p>

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	コミュニティバスの効果的・効率的な運行のため路線の見直しを行った。	令和2年の再編に伴う変化で急激な利用減などの大きな問題は生じていない。おかげバス東大淀・明野・小俣線については、延伸要望があったため、令和4年4月に大半の便を日赤病院まで延伸した。	東大淀・明野・小俣線に関しては、環状線以外のおかげバスの中では利用者が回復傾向のため、今後の推移を注視しつつ、他路線についても修正等により利便性の向上を図り、利用回復を目指す。
	社会実証運行を行っていた市内環状バスについて、路線バスや鉄道との乗り継ぎ割引きの継続、利用環境の改善等を行い本格運行を開始し、利用者は増加傾向にある。	環状線の利用者増加は、利用環境の改善のほか、環状線の認知度向上も原因と考えられる。また、乗継割引による利用も利用者数以上の割合で増加しており、乗継割引制度が浸透し環状線沿線外からの利用につながっている。	乗継割引などの制度は引き続き継続して行う。バス停に環状線の運賃や施設等への所要時分をわかりやすく書くなど、環状線そのもののPRをさらに進め、利用者の増加につなげていく。
	コロナ禍においても安心して公共交通を利用してもらえよう、公共交通における新型コロナウイルス対策をPRすることにより、利用促進につなげられることを期待。	引き続き運行事業者に対し、窓の開放や車両の抗菌処理等、適切な感染症対策を行うよう呼び掛けているほか、車内等に感染症対策を実施している旨の掲示をするなど、安心して利用できる環境であることをPRしている。	社会的には新型コロナウイルス感染症の影響も小さくなってきているが、コミュニティバス全体での利用者が回復しているとは言えない状況である。バスの乗り方教室等の利用促進イベントを通じて安心して利用できる環境であることのPRを継続していく。

年間単位のスケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
公共交通 会議			①				②			③			
主な行事			◆確保維持改善計画				★ 次年度予算要求			第三者評価委員会 ◆			
実施する こと	次年度事業計画の 検討		P →							実施状況確認、課題改善検討			
	事業実施						D		今年度事業の検証			C →	A →

【公共交通会議の実施状況（直近1年程度）】

- ・ 令和3年度第3回 1月13日 主な議題：事業評価、令和4年4月のダイヤ変更、
自家用有償旅客運送の更新登録、バス停上屋設置報告
- ・ 令和4年度第1回 6月10日 主な議題：事業計画、フィーダー系統申請、ダイヤ修正、
福祉部署の取組み（おでかけタクシー）、自動運転の検証
- ・ 令和4年度第2回 10月29日 主な議題：ボンネットバス里帰り企画、R5年度版公共交通時刻表、
おかげ電気バス導入、伊勢玉城線運賃改定
(バスポスターコンクール表彰式と併催)

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和5年1月20日

協議会名： 伊勢地域公共交通会議

評価対象事業名： 令和4年度地域公共交通確保維持改善計画(地域公共交通確保維持事業のうち地域内フィーダー系統関係)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）						
	公共交通サービスの地域格差の是正や、交通弱者への病院や商業施設等への日常的な交通手段の提供、市内を放射状に運行する路線バスへの補完など、公共交通サービスの充実を図るため、公共交通の不便な地域のほか市内の主要な施設を結ぶ路線を運行	コミュニティバスの運行維持 ⇒コミュニティバス運行により、自らの移動手段を持たない交通弱者に対し買い物・通院等の移動手段について、維持・確保を実施。 おかげバス環状線の運行 ⇒令和2年4月からの本格運行を開始後、感染症の影響を受けつつも継続的な運行を実施し、利用者数は増加傾向。	計画どおりバスを運行するとともに、周知利用促進活動も実施するなど、事業は適切に実施された	<p>【全体評価】 社会的には新型コロナウイルス感染症の影響も小さくなってきたが、利用者数が感染症拡大前の水準には戻ってきていない。路線によっては感染症禍の昨年度と同水準のまま推移しており、回復傾向にもなっていない。感染症対策のPRの実施の継続に加え、利用そのものの促進を行う必要がある。 なお、目標値を超えたものについては「A評価」、目標値と実績値での比較で達成率90%以上のものを「B評価」、それ未満を「C評価」とする。</p>	<p>○社会的には新型コロナウイルス感染症の影響も小さくなってきたが、利用者数が感染症拡大前の水準には戻ってきておらず、感染症対策のPRの実施の継続に加え、利用自体の促進を行う必要がある。</p> <p>○沼木地区自主運行バスの利用減少が続いているため、地域の学生(小中高生)の通学時間に合わせつつ、日常生活路線として利用できるダイヤをまちづくり協議会で協議し、ダイヤ変更を行った。デマンドについても要望のあった勾配の大きい地区へ延伸し、より利用しやすいものとした。また、お得に利用できるおかげバス回数券の利用・販売を開始したほか、地区別の時刻表をまちづくり協議会にて作成し、住民へ配布した。ダイヤ変更後の利用者数の推移を注視していく。</p>						
三重交通株式会社	鹿海・朝熊線(R3.10～R4.9) 〔いせトピア～朝熊町～いせトピア〕			<p>B</p> <table border="0"> <tr> <td>【利用者数】</td> <td>【1人あたり税金投入額】</td> </tr> <tr> <td>目標:10,150人</td> <td>目標:1,080円</td> </tr> <tr> <td>実績:9,408人</td> <td>実績:1,170円</td> </tr> </table>	【利用者数】	【1人あたり税金投入額】	目標:10,150人	目標:1,080円	実績:9,408人	実績:1,170円	
【利用者数】	【1人あたり税金投入額】										
目標:10,150人	目標:1,080円										
実績:9,408人	実績:1,170円										
三重交通株式会社	東大淀・明野・小俣線(R3.10～R4.9) 〔伊勢赤十字病院、小俣図書館～近鉄明野駅前～山大淀〕	市内を運行する路線バス等の利用促進 ⇒環状線とおかげバスの他の路線、路線バス、鉄道および地域運営乗合タクシーとの乗り継ぎの際の、乗継割引を継続して実施。	<p>C</p> <table border="0"> <tr> <td>【利用者数】</td> <td>【1人あたり税金投入額】</td> </tr> <tr> <td>目標:23,430人</td> <td>目標:1,260円</td> </tr> <tr> <td>実績:19,523人</td> <td>実績:1,560円</td> </tr> </table>	【利用者数】	【1人あたり税金投入額】	目標:23,430人	目標:1,260円	実績:19,523人	実績:1,560円		
【利用者数】	【1人あたり税金投入額】										
目標:23,430人	目標:1,260円										
実績:19,523人	実績:1,560円										
三重交通株式会社	二見線(R3.10～R4.9) 〔松下広場～浜郷小学校前、山商口～五十鈴川駅〕		<p>C</p> <table border="0"> <tr> <td>【利用者数】</td> <td>【1人あたり税金投入額】</td> </tr> <tr> <td>目標:14,140人</td> <td>目標:1,330円</td> </tr> <tr> <td>実績:12,117人</td> <td>実績:1,550円</td> </tr> </table>	【利用者数】	【1人あたり税金投入額】	目標:14,140人	目標:1,330円	実績:12,117人	実績:1,550円		
【利用者数】	【1人あたり税金投入額】										
目標:14,140人	目標:1,330円										
実績:12,117人	実績:1,550円										
三重交通株式会社	辻久留・藤里線(R3.10～R4.9) 〔大倉うぐいす台～勢田町～伊勢市役所正面〕		<p>C</p> <table border="0"> <tr> <td>【利用者数】</td> <td>【1人あたり税金投入額】</td> </tr> <tr> <td>目標:14,600人</td> <td>目標:1,340円</td> </tr> <tr> <td>実績:11,301人</td> <td>実績:1,730円</td> </tr> </table>	【利用者数】	【1人あたり税金投入額】	目標:14,600人	目標:1,340円	実績:11,301人	実績:1,730円		
【利用者数】	【1人あたり税金投入額】										
目標:14,600人	目標:1,340円										
実績:11,301人	実績:1,730円										
三重交通株式会社	環状線(R3.10～R4.9) 〔伊勢市駅前～伊勢病院前～伊勢市駅前〕		<p>A</p> <table border="0"> <tr> <td>【利用者数】</td> <td>【1人あたり税金投入額】</td> </tr> <tr> <td>目標:46,360人</td> <td>目標:940円</td> </tr> <tr> <td>実績:47,296人</td> <td>実績:930円</td> </tr> </table>	【利用者数】	【1人あたり税金投入額】	目標:46,360人	目標:940円	実績:47,296人	実績:930円		
【利用者数】	【1人あたり税金投入額】										
目標:46,360人	目標:940円										
実績:47,296人	実績:930円										

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
伊勢市	沼木地区自主運行バス 市内連絡用(1) (R4.9) 〔床ノ木～横輪口～神菌〕	<p>利便性向上によるおかげバスの利用促進 ⇒令和2年11月より、バスの運行状況をインターネットで確認できるバスロケーションシステムの導入を、市内路線バスとともに実施。また、令和3年9月より交通系ICカードによる運賃決済を導入。ICカードの利用率は令和4年9月で30.4%（導入当初の令和3年9月は19.0%）。</p> <p>周知・利用促進活動の継続的な実施 ⇒市内の小学校を対象にバスの乗り方教室を実施。また、交通安全指導員の協力のもと、実際のバス車両を利用した交通安全教室を同時実施。さらに、市内の地域団体を対象に高齢者向けのバスの乗り方教室も実施。</p>	A 計画どおりバスを運行するとともに、周知利用促進活動も実施するなど、事業は適切に実施された	A 【利用者数】 目標：26人 実績：39人	<p>○公共交通機関の周知・利用啓発として、時刻表の作成・配布、広報誌での情報発信、バスの乗り方&交通安全教室の開催、バスポスターコンクール展示会などを実施する。観光目的の公共交通機関による来訪が低迷していることから、観光部署や関係事業者との連携で、市外への周知・利用啓発にも取り組みたい。</p> <p>○バスの利用環境の改善として、おかげバスでのキャッシュレス決済の導入やバスロケーションシステムの導入を行なったため、引き続き広報や時刻表発行などのタイミングで定期的な周知を行う。環状線における乗継割引券のサービスや、標準的なバス情報フォーマットGTFS-JPでのデータ提供についても継続して行う。また、路線バスで開始したGoogleマップのリアルタイム表示についても、今後、事業者と連携して対応する。</p>
	沼木地区自主運行バス 市内連絡用(2) (R3.10～R4.8) 〔床ノ木～横輪口～神菌〕 (R4.9) 〔床ノ木～横輪口〕			C 【利用者数】 目標：363人 実績：153人	
	沼木地区自主運行バス 市内連絡用(3) (R4.9) 〔床ノ木～横輪口～津村口〕			C 【利用者数】 目標：26人 実績：8人	
	沼木地区自主運行バス 南伊勢高校度会校舎前連絡 (R3.10～R4.9) 〔川口～南伊勢高校度会校舎前〕			C 【利用者数】 目標：619人 実績：6人	
	沼木地区自主運行バス 市内連絡・買物用(1) (R3.10～R4.8) 〔床ノ木～津村～度会町役場前〕 (R4.9) 〔床ノ木～沼木神社北～津村～度会町役場前〕			C 【利用者数】 目標：1,840人 実績：1,430人	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年1月20日

協議会名：	伊勢地域公共交通会議
評価対象事業名：	令和4年度地域公共交通確保維持改善計画(地域公共交通確保維持事業のうち地域内フィーダー系統関係)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>平成28年3月に策定、令和2年3月に改訂した伊勢市地域公共交通網形成計画において、伊勢市が目指す将来像を「気軽におでかけができ、交流と活力に満ちた地域社会を支える地域公共交通」とし、その実現に向け「私たちが創り、育む、持続性のある地域公共交通網の構築」という基本理念を定めている。</p> <p>目指すべき将来像や基本理念を実現するために、「日常生活で利用できる公共交通を目指す」、「公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す」、「地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える」の3つの基本方針を定め、事業の推進を図っている。</p> <p>その中で、「日常生活で利用できる公共交通を目指す」ために公共交通不便地域の解消、自らの移動手段を持たない交通弱者が、病院、商業施設等への移動手段の確保、バス利用での利便性の向上、バスやバス停の周辺環境の改善、これらを実施するとともに、ルート・ダイヤの見直しなどの効率化を図り、バス路線の維持・確保をしていく。</p>